

2023(令和5)年度前期 法華コモンズ講座 4月より開講

開設講座一覧と受講の手引き

《 開設講座 》

● 一日集中講座「中観思想とはなにかーその成立と展開ー」

開講日時：6月3日(土) 午後1時30分～5時30分

講師：斎藤 明

● 集中講座「鎌倉仏教研究史について～官僧・遁世僧論の立場から」全2回

開催日時：7/1と9/16の両日 午後1時30分～5時30分

講師：松尾 剛次

第1講義 7月 1日(土)「鎌倉新・旧仏教論、顕密体制論を超えて」

第2講義 9月16日(土)「官僧・遁世僧論の提起と日蓮」

● 歴史から考える日本仏教⑩「日本の偽書・偽文書を読み解く」全5回

開催日時：原則第2火曜日 午後6時30分～8時30分

講師：菊地 大樹

第1講 4月11日(火) 偽書・偽文書とはなにか

第2講 5月 9日(火) 偽書・偽文書の生れる伝授の場

第3講 6月 6日(火) 中世「神話」と偽書・偽文書

第4講 7月11日(火) 生まれ変わる近世の偽書・偽文書

第5講 8月 8日(火) 地域社会と偽書・偽文書

● シリーズ講座「法華仏教講座」全6回 開講時間 午後4時30分～6時30分

第1回 4月 1日 「天台大師所説の禅観と止観」

講師：大松久規

第2回 5月27日 「『科註妙法蓮華經』と日蓮門下との関わりについて」

講師：大平寛龍

第3回 6月24日 「『法華義疏』について」

講師：魚住孝至

第4回 7月29日 「一念三千の現代的解釈」

講師：三輪是法

第5回 8月26日 「近世後期の日蓮信奉者 深見要言について」

講師：坂井法暉

第6回 9月30日 「智顗教学と日蓮教学の仏身論」

講師：花野充道

● 連続講座「『法華經』『法華文句』講義」全6回

開催日時：最終月曜日 午後6時30分～8時30分

講師：菅野 博史

第1回 4月24日 / 第2回 5月29日 / 第3回 6月26日

第4回 7月31日 / 第5回 8月28日 / 第6回 9月25日

※コロナ禍状況によりオンラインまた動画配信講義への変更等も御承知のほどお願いいたします

法華コモンズ仏教学林事務局

「再歴史化」の知的な拠点を創りましょう！ 理事長 西山 茂

戦前期に生きた田中智学は、日蓮仏教を近代日本に「再歴史化」（蘇生）するために、「祖道復古」と「国体開顕」および「宗門革命」（宗門の維新）の旗を掲げて日蓮主義の運動を主導し、複数の教学講習会を開いて、以後の日蓮仏教諸派の僧俗に多くの影響を与えました。



今回、私たちが11年間も続いた本化ネットワーク研究会を閉じて法華コモンズ仏教学林（門流や会派を超えた法華仏教の学び舎）を起ち上げたのも、法華仏教（日蓮仏教）を現代日本に「再歴史化」するためにほかなりません。「再歴史化」の意味を深く考えるとすれば、それは普遍的な宗教真理は特殊な歴史状況のなかに繰返し「再歴史化」されなければ人々への説得力を失ってしまう、ということでしょう。

現代社会は智学の時代と違ってより複雑化しているだけでなく、教学や遺文の研究レベルも上がり、それだけ私たちが学ばなければならないことが多くなっています。こうしたことは、門流や会派が単独で法器養成等に取り組むことを非常に難しくしているといえます。そして、このような事態も、法華コモンズ仏教学林の誕生を促す要因となっているといえるでしょう。幸い、法華コモンズ仏教学林には、多彩で優れた講師陣が揃っています。

皆さま、この際、どうか法華コモンズ仏教学林の受講生となり、門流や会派の中垣を超えて法華仏教（日蓮仏教）の共通の智を学び、ともに仏国土づくりの聖業に邁進しようではありませんか。

皆様のご参加をお待ちしております！ 学林長 布施 義高

日蓮仏教の「再歴史化」を理念として、斯界に新たな地平を切り開いた、東洋大学名誉教授・西山茂先生主宰の本化ネットワーク研究会。また、日蓮聖人の実像や、壮大なスケールの思想の全体像を浮き彫りにすべく、日蓮門下が一丸となって編集され、平成27年全五巻の刊行完結をみた『シリーズ日蓮』（春秋社）。こうした画期的な成果を受け継ぎ、平成28年4月、西山茂先生を理事長、シリーズ日蓮刊行会会長・佐古弘文先生（同年11月御遷化）を副理事長に仰ぎ、法華コモンズ仏教学林が始動いたしました。



これから本格的に法華経や日蓮聖人を学びたい方の登竜門として、また、各教団が課題とする人材育成、次代の日蓮門下全体の隆盛へ向けての基礎作りの場として、さらには、より高みを目指す研究者の研鑽の場として、多様なニーズを満たせるよう、スタッフ一同、鋭意努力して参ります。

法華コモンズの主役は、これから参加される皆様お一人おひとりです。仏教界全体に、時代を先導し、光明を灯す力が求められている昨今、日蓮仏教（法華仏教）の立場から、世の期待に大いに応えていこうではありませんか。

法華コモンズ仏教学林 スタッフ紹介

【運営スタッフ】

○理事長 西山 茂
○学林長 布施義高
○事務担当 澁澤光紀
竹内敬雅
○財務担当 竹内敬雅
○総務担当 西條義昌
○ブログ担当 林 明彦
○ツイッター担当 武川清明
○ビデオ班 竹内敬雅／神蔵寿観／林 明彦／山名隆年

【教学委員】

○上杉清文
○花野充道
○菅野博史
○寺尾英智
○三輪是法

【講座担当】

○斎藤先生講座 佐古弘純／武川清明／松永良樹
○松尾先生講座 武川清明／松永良樹／西山明仁
○菊地先生講座 芹澤寛隆／作田光照／谷口 智
○菅野先生講座 稲田隆広／作田光照／澁澤光紀
○法華仏教講座 西山明仁／佐古弘純／波田地克利

【 講座会場 】

福聚山 常円寺 〒160-0023 東京都新宿区西新宿 7-12-5 寺務所 ☎ 03 (3371) 1797

祖師堂 地階ホール（または日蓮仏教研究所の一階「学室」）

※「対面講義」を前提として zoom でのオンライン実況配信、ならびに終了後の「講座ビデオ配信」とあわせて開講しています。

※コロナ禍の状況により**対面講義が不可の場合は、オンライン講義（後に動画配信）のみにて開催します**。なお、諸状況で延期・中止になった場合は「受講料を返却」しております。

《会場への交通》

- JR線・小田急線・京王線・丸ノ内線を利用の場合
⇒ 新宿駅西口改札より徒歩6分
- 西武新宿線を利用の場合
⇒ 西武新宿駅正面口改札より徒歩6分
- 大江戸線を利用の場合
⇒ 新宿西口駅「D5出口」より徒歩3分
- 丸ノ内線を利用の場合
⇒ 西新宿駅1番出口より徒歩4分



法華コモンズ仏教学林 2023 度 前期 一日集中講座 対面&実況

中観思想とは何かーその成立と展開ー

講師： 斎藤 明 先生

2023 年 6月3日(土) 午後1時 30 分～5時 30 分 受付:午後1時より

【講義概要】

中観思想は、瑜伽行唯識思想とともに、インド大乘仏教の中核をなす思想の一つとしてよく知られる。これら二つの思想は、いずれも初期仏教由来の非有・非無の中道説に淵源し、大乘經典、とくに初期の般若經の思想をもとに展開したという点は共通する。ただし、時代背景と、教理解釈をめぐる微妙な相異は、のちに大乘仏教思想の二つの潮流を生むことになる。5世紀以降にはまた、瑜伽行派と中観派という二大学派が誕生し、両学派相互の議論や、仏教内外の論争をへて、それぞれに興味深い展開を見ることになった。

これらの思想的な展開は、とくに瑜伽行派の学説と深い関わりもつ如来蔵・仏性説も相まって、インドにとどまらず、東アジアや内陸アジアにおける仏教思想にも大きな影響を与えることになる。

この講義では、仏教思想史における中観思想とはなにか、またそれはいかなる背景のもとにどのような展開を見ることになったのかを再考してみたい。

○参考文献「中観思想の成立と展開ーナーガールジュナの位置づけを中心としてー」、『空と中観』（シリーズ大乘仏教6 春秋社刊）3頁～41 頁

【講師略歴】

斎藤明（さいとうあきら）：1950 年生まれ。東京大学大学院博士課程単位取得退学。オーストラリア国立大学 PhD。国際仏教学大学院大学教授。東京大学名誉教授。

著書に *A Study of Akṣayamati(=Śāntideva)'s Bodhisattvacaryāvatāra as Found in the Tibetan Manuscripts from Tun-huang*, 1993, 『大乘仏教とは何か』（シリーズ大乘仏教1、共編著 [代表]、春秋社、2011）、『空と中観』（シリーズ大乘仏教6、共編著 [代表]、春秋社、2012）、『ステイラマティ『五蘊論釈』における五位百法対応語』（共編著 [代表]、山喜房佛書林、2022）他。

【日 時】2023 年 6月3日(土) 午後1時半～5時半

【会 場】新宿 常円寺 祖師堂地階ホール 新宿区西新宿 7-12-5 寺務所 ☎03 (3371) 1797

【受講料】5,000 円 ※対面、オンラインとも同額になります

法華コモンズ仏教学林 2023 年度 前期 集中講座 全2回 **対面&実況**

鎌倉仏教研究史について～官僧・遁世僧論の立場から

講師：松尾 剛次 先生

第1講義 **7月1日(土)** 開講：午後1時30分～5時30分（4時間）

「鎌倉新・旧仏教論、顕密体制論を超えて」

第2講義 **9月16日(土)** 開講：午後1時30分～5時30分（4時間）

「官僧・遁世僧論の提起と日蓮」

【講義概要】

「鎌倉新仏教とは何か」に関する研究は汗牛充棟たるものがあるが、その通説的パラダイムともいうべきものは、大きく二つある。「鎌倉旧・新仏教論」と「顕密体制論」である。「鎌倉旧・新仏教論」は井上光貞、家永三郎らによって形成された考えで、長い間通説的な立場を占めてきた。選択、専修、易行、反戒律、反密教、民衆救済などを指標とし、親鸞を鎌倉新仏教の典型とし、鎌倉新仏教の果たした役割に大きな光を当てた。他方の「顕密体制論」は1970年代に黒田俊雄によって提起された説である。「正統」と「異端」を指標にして、興福寺、延暦寺といったいわゆる旧仏教寺社勢力の果たした役割の大きさに光を当てた。この顕密体制論により、「鎌倉旧・新仏教論」は影響力を失い、旧仏教寺社勢力研究が盛んとなった。私は、いずれの説にも大きな問題があると考えている。講義では、従来のパラダイムを紹介しつつ、それらに代えて官僧・遁世僧体制という私見を提起する。そのうえで、日蓮を遁世僧として見直す。

【講師略歴】

松尾剛次（まつおけんじ）：1954年生まれ、山形大学名誉教授、早稲田大学講師、文学博士（東大） 東京大学特任教授、ロンドン大、ニューヨーク州立大、北京外大等で客員教授。

『仏教入門』（岩波ジュニア新書）、『日本仏教史入門』（平凡社新書）、『鎌倉新仏教の成立』（吉川弘文館）、『忍性』（ミネルバ書房）など多数の著書がある。

【日 時】 **7月1日(土)、9月16日(土)** / 開場：13時～、開講：午後1時30分～

【会 場】新宿 常円寺 祖師堂地階ホール 新宿区西新宿 7-12-5 寺務所 ☎ 03 (3371) 1797

【受講料】2回分 7,000 円（1 回 4,000 円） ※対面、オンラインとも同額になります

法華コモンズ仏教学林 2023 度 前期 連続講座 全5回 **対面&実況**

歴史から考える日本仏教 ⑩

日本の偽書・偽文書を読み解く

講師：菊地 大樹 先生

【講義概要】

この講座は、歴史学の立場から日本仏教のさまざまな側面を継続的に考えてゆくことを目指します。これは言い換えれば、教理文献に残された思想を、それが著された時代の文脈の中で立体的にとらえなおす営みに他なりません。しかもひとつの時代は系譜となって、前後に長く連なってもいます。そこで日蓮の生きた鎌倉時代をつねにどこかで射程に入れつつも、ときには原始古代にまでさかのぼり、また私たちの生きる近現代にも立ち戻って進んでいきたいと思います。

2023 年度前期は、22 年度のシンポジウム・対談「偽書が生み出した日本仏教」において総合的に議論した問題をさらに深め、個別に考えていきたいと思います。偽書・偽文書には歴史書から宗教文献まで幅広いジャンルが含まれます。それらは、誰かを騙すために作られたとは限りません。〈歴史〉といっても、それが指すイメージは中世・近世・近代で大きく異なります。その時代に合った語り方を探る中で、多くの偽書・偽文書が生まれました。以前から知られていた「竹内文書」や「東日流外三郡誌」に加え、最近では「椿井文書」にも大きな注目が集まっています。2000 年代以降、このような偽書・偽文書を単なる好奇の対象としてではなく、歴史・文学・思想の問題として再考する学術研究が多く進められてきました。今回の講義では、毎回指定文献の読解を中心にしながら、真正な文書と偽書・偽文書の両方を具体的に検討していきたいと思います。なお指定文献は毎回受講者に対し、事前に事務局より配布いたします。

【講師略歴】

菊地大樹（きくちひろき）：東京大学大学院修士課程修了。博士（文学）。現在、東京大学史料編纂所教授。著書に『中世仏教の原形と展開』（吉川弘文館、2007 年）、『日本人と山の宗教』（講談社、2020 年）、『吾妻鏡と鎌倉の仏教』（吉川弘文館、2023 年）他。論文に「再考：持経者から日蓮へ」（『花野充道博士古稀記念論集』山喜房仏書林、2020 年）、「環境と身体を結ぶもの」（『東アジア学術論集』11 号、2023 年）他。

【講義日時】全5回、時間（原則・第二火曜日）：午後 6 時 30 分～8 時 30 分

第1講	4月11日（火）	午後6時半～	偽書・偽文書とはなにか
第2講	5月9日（火）	//	偽書・偽文書の生れる伝授の場
第3講	6月6日（火）	//	中世「神話」と偽書・偽文書
第4講	7月11日（火）	//	生まれ変わる近世の偽書・偽文書
第5講	8月8日（火）	//	地域社会と偽書・偽文書

【会 場】新宿 常円寺 祖師堂地階ホール 新宿区西新宿 7-12-5 寺務所 ☎ 03 (3371) 1797

【受講料】1 期分 10,000 円（全5回の講義） ※当日 1 回の受講料は 3,000 円です

法華コモンズ仏教学林 2023 年度 前期 全6回 **対面&実況**

シリーズ講座「法華仏教講座」

【日 時】全6回 原則土曜日の午後4時30分～6時30分（2022年10月～2023年3月の5回）

【会 場】新宿常円寺祖師堂3階会議室 新宿区西新宿 7-12-5 寺務所 ☎ 03（3371）1797

※対面講義が不可の場合は、オンラインのみ（後に動画配信）で開催する予定です

【受講料】1期6回分 12,000 円 ※1回のみ受講料は 3,000 円です

第1回 天台大師所説の禅観と止観

講師：大松久規 先生

【日 時】 2023 年 4 月 1 日（土） 午後4時30分～6時30分

【講義概要】

「震旦の小釈迦」（中国の釈迦二世）と称された天台大師智顗（538-597）は、後世、天台宗の事実上の開祖として仰がれるが、ひとり天台宗のみならず、中国・日本の仏教にも絶大な影響を与えた人物である。智顗一代の行跡は、いわゆる「教観二門」にわたるものであり、その実践的側面として『摩訶止観』を中心とした止観の確立が挙げられることは言うまでもない。

しかしながら、この止観の確立は晩年のことである。如何なる思想にも由来があるのは当然であり、智顗による止観の構想も突発的に生じたわけではない。従来、止観の淵源を探る過程においては、前期時代に説示された禅観に着目すべきことが指摘されている。

そこで、本講義では、智顗における一生涯の思想的変遷を、禅観と止観という枠組みで対置し、両者に如何なる関連があるのかを明らかにする。具体的には、最初期の講説であり、禅観に対する理解がまとめられている『釈禅波羅蜜次第法門』と、晩年の『摩訶止観』の記述を中心に採り上げる。その上で、両書以外の各講説にも言及し、最新の研究成果についてもご紹介したい。

【講師略歴】

大松久規（おおまつひさのり）：1985 年、岩手県生まれ。駒澤大学大学院人文科学研究科仏教学専攻博士後期課程修了。博士（仏教学）。現在、愛知学院大学専任講師。近年の論文に「『観心論』について」（『曹洞宗総合研究センター学術大会紀要』23、2022 年）、「宝地房証真の「四種三昧」受容」（『禅研究所紀要』49、2021 年）など。

第2回 『科註妙法蓮華経』と日蓮門下との関わりについて 講師：大平寛龍 先生

【日 時】 2023 年 5 月 27 日（土） 午後4時30分～6時30分

【講義概要】

中国元代の徐行善による『科註妙法蓮華経』（以下、『科註』）は、『御義口伝』に引用される文献として日蓮門下ではつとに知られてきました。その主な関心は、引用される『科註』の成立年代（元貞元年、

1295)が、『御義口伝』の講述年代(弘安元年、1278)よりも17年も遅いという、執行海秀氏の指摘した矛盾点にあったと思われます。ただ、そもそも『科註』が日蓮門下でいつ頃から如何に用いられ、また如何に広がっていったのかなどの問題については、未だ不明な点が多く残されています。こうした『科註』について、本講義では講義者が主たる研究対象としてきた慶林日隆の所持本『科註』を中心に上げながら、近年その存在が明らかになった本国寺日伝写本『科註』なども紹介しつつ、日蓮門下における『科註』との関わりについて、これまでの調査で分かってきたことをお話したいと思います。

【講師略歴】

大平寛龍(おおひらかんりょう):1973年、香川県生まれ。立命館大学大学院文学研究科博士後期課程修了。博士(文学)。興隆学林専門学校宗学研究科卒。現在、興隆学林専門学校専任講師。主な論文に、「日隆聖人御所持『心空嘉慶版妙法蓮華經』『科註妙法蓮華經』小考」(『桂林学叢』第25号、2014年3月)。「『本門弘經抄』と『科註妙法蓮華經』」(『印度學佛教學研究』通巻第144号、2018年3月)。「本国寺日伝写本『科註妙法蓮華經』に関する一考察」(『興風』第33号、2021年12月)など。

第3回 『法華義疏』について

講師:魚住孝至 先生

【日時】 2023年 6月24日(土) 午後4時30分~6時30分

【講義概要】

『法華義疏』は、奈良時代以来、日本だけでなく、中国でも、聖徳太子(上宮王)作として大きな影響を及ぼしてきた。けれども戦後、聖徳太子の手になるのか疑問とする説が大きくなり、特に日本思想大系『聖徳太子』(岩波書店・1965)に、一体として『三経義疏』とされた『勝鬘經義疏』は敦煌文書に7割同じ内容が見られるので中国撰述説を唱えた解説が載せられて以降は偽撰とする説が強まった。『仏教史研究ハンドブック』(法蔵館・2017)、『日本思想史事典』(丸善・2020)などは偽撰と断定した論が載せられ、『事典日本の仏教』(吉川弘文館・2014)でもごく簡単な記述に止めている。

しかし『仏典解題事典』(第三版)(春秋社・2020)は、近年石井公成が、『維摩經義疏』も合わせた三疏は共通する倭習の変格・変則語法で一体であり太子の真撰と論じている、特に太子自筆の伝承がある草本が現存する『法華義疏』は太子撰述と見て差し支えないと記述している。花山信勝校注『法華義疏』(岩波文庫・1975)、石井公成『聖徳太子』(春秋社・2016)、木村整民「聖徳太子の序品解釈」(四天王寺大学紀要・2021)等の研究を踏まえ、前代の梁の仏教の受容と隋との外交などを考慮しても、太子撰述で間違いはないと考えている。三疏の撰述とその内容が、日本の仏教受容を決定づけ、後にも大きな影響を及ぼしたものと改めて見直す必要があるのではないか。

【講師略歴】

魚住孝至(うおすみたかし):1953年兵庫県生まれ。東京大学大学院人文科学研究科倫理学専攻博士課程単位取得満期退学。博士(文学)。現在、放送大学特任教授。

主な著書:『宮本武蔵 日本人の道』(ぺりかん社・2002)、『宮本武蔵』(岩波新書・2005)『芭蕉 最後の一句』(筑摩選書・2011)、『日本文化と思想の展開一内と外と』(放送大学教育振興会・2022)、訳書にオイゲン・ヘリゲル著『新訳 弓と禅』(角川ソフィア文庫・2015)など。

第4回 一念三千の現代的解釈

講師：三輪是法 先生

【日 時】 2023 年 7 月 2 9 日（土） 午後4時 30 分～6時 30 分

【講義概要】

天台大師智顗（538－597）が『摩訶止観』で説く「一念三千」は、周知の通り、不可思議なる対象として人間の心を表した言葉で、三千という数字は法華經の十如是（現象界を形成する構成要因と原理）と地獄界から仏界までの十界、そして五蘊世間・衆生世間・国土世間の三種世間の乗数である。換言すると、我々の心は本来具有している聖者を含めた十種の善悪の人格的要因（十界）と現象界（十如是）、さらに環境的外部要因を含めた存在の差異性（三種世間）の関係として成り立っているといえ、心には「他者」が存在しているということがいえる。そこで本研究では、人間の精神（実体視される心ではなく、関係性の中から誘発する精神というべきか）に焦点を当てた一念三千という理論を、精神分析が提唱する三つの視点、自我論と主体論、そして欲望論に基づいて考察を加え、仏教の人間観の一端について、すなわち『摩訶止観』と精神分析が示す人間存在と心について考察を試みようとするものである。

【講師略歴】

三輪是法（みわけほう）：1964 年生まれ。立正大学大学院文学研究科博士後期課程満期退学。博士（文学）。立正大学仏教学部教授。共著：『仏教の教え』（春秋社）、『アジアに広がる仏教』（山喜房佛書林） 論文：‘Varieties of Belief in Nichiren Buddhism in Modern Japan’（『日本印度学佛教学研究』第 69 巻第 3 号）、「日蓮聖人の諸宗認識一問題提起」（『日蓮教学研究所紀要』第 47 号）など。

第5回 近世後期の日蓮信奉者 深見要言について

講師：坂井法暉 先生

【日 時】 2023 年 8 月 2 6 日（土） 午後4時 30 分～6時 30 分

【講義概要】

深見要言（ふかみ・ようごん）は近世後期、日蓮遺文・日蓮伝の出版活動等を通じて、日蓮研究と啓蒙につとめた在家信奉者である。しかし「要言は資料を投じみずから校訂に従事した遺文改版史上光彩を放つ人であるが、当時の情勢に添わなかったのか広く知られてはいない」（兜木正亨『日蓮文集』）と指摘され、今日にいたってもなお、深見を研究・顕彰する人は皆無に等しい。本講義では、そんな埋もれた日蓮信奉者の生涯にせまる。

【講師略歴】

坂井法暉（さかいほうよう）：1970 年生まれ。立正大学仏教学部卒業。興風談所所員。論文：「日蓮遺文中の擡頭・平出とその周辺」（『興風』33 号）、「日蓮の語る承久の乱とその周辺」（『承久の乱研究の最前線』近刊）など。

第6回 智顗教学と日蓮教学の仏身論

講師：花野充道 先生

【日 時】 2023 年 8 月 2 6 日（土） 午後4時 30 分～6時 30 分

【講義概要】

2022年9月10日の講義（日蓮教学における教観論と種脱論）の際に、時間の関係で講義できなかったレジュメについて補足説明をした後、天台教学における本迹不思議一の仏身論と、日蓮教学における本迹勝劣の仏身論を対比しながら一緒に考えてみたい。

日蓮教学は本迹勝劣であるから、末法の衆生が帰依すべき本仏とは何か、ということが問題になる。久遠に本因を修行して本果を証得した釈尊を本仏と称することは、智顗の『法華玄義』や『法華文句』にも説かれている。それでは、智顗の言う本仏と日蓮の言う本仏は、全く同じ仏身であろうか。智顗の仏身論は空思想に立脚しているが、日蓮の仏身論はいわゆる「基体説」に立脚している。日蓮教学における究極の根本仏をどのように考えるべきか。鈴木一成の寿量品の本仏論、望月敏厚の始覺即本覺の本仏論、慶林日隆の一仏二名の本仏論、さらに日興門流の互為主伴論や日蓮本仏論についても言及してみたい。

【講師略歴】

花野充道（はなのじゅうどう）：1950年京都府生まれ。早稲田大学大学院文学部東洋哲学専攻博士課程修了。博士(文学)。法華仏教研究会主宰。『法華仏教研究』編集長。法華コモンズ仏教学林教学委員。単著に『天台本覚思想と日蓮教学』（山喜房仏書林、2010年）、単編著に『シリーズ日蓮第1巻・法華経と日蓮』（春秋社、2014年）、『シリーズ日蓮第2巻・日蓮の思想とその展開』（春秋社、2014年）、『シリーズ日蓮第3巻・日蓮教団の成立と展開』（春秋社、2015年）、『花野充道博士古稀記念論文集 一仏教思想の展開・日蓮仏教とその展開』（山喜房仏書林、2020年）。他、論文多数。

— 法華コモンズ仏教学林 2023年度前期 全6回 **対面&実況** —

「『法華経』『法華文句』講義」

講師 菅野 博史 先生

【講義概要】

今年度の前期も、『法華経』『法華文句』の講義を継続します。『法華文句』は『法華経』の随文釈義の注釈書ですので、「注釈書読みの経典知らず」にならないためには、『法華文句』を読むときには、常に『法華経』の本文を読まなければなりません。現在、『法華文句』の本文を地道に読む機会はほとんどないと思われるので、この講義では、『法華文句』の本文をすべて読んでいきます。もちろん同時に『法華経』も読んでいきます。受講生のご希望がある限り、地道に続けていきたいと思っています。いよいよ「譬喩品」の随文釈義の部分を学習していきます。

- ★教科書『法華文句』Ⅱ・Ⅲ（第三文明社、各冊2,530円）※コモンズ割引価格2,000円（受付にて）
- ★『法華経』はプリントを配布します

【講師略歴】

菅野博史（かんのひろし）：1952年福島県生まれ。1976年東京大学文学部印度哲学印度文学科卒業。1984年東京大学大学院博士課程（印度哲学）単位取得退学。1994年文学博士（東京大学）。現在、創

価大学文学部教授、(公財) 東洋哲学研究所副所長。専門は、仏教学、中国仏教思想史。著書に『一念三千とは何か―摩訶止観正修止観章―』(第三文明社)、『法華経入門』(岩波書店)、『中国法華思想の研究』(春秋社)、『南北朝・隋代の中国仏教思想研究』『法華経―永遠の菩薩道―』(大蔵出版)、『中国仏教の経典解釈と思想研究』(法蔵館) など多数。訳書に『現代語訳 法華玄義』上・下(東洋哲学研究所)、『現代語訳 法華玄義釈籤』上・中(松森秀幸と共訳、東洋哲学研究所) など多数。

【講義日】 全6回、時間(原則・最終月曜日): 午後6時30分~8時30分

第1回(第59講)	4月24日	第4回(第62講)	7月31日
第2回(第60講)	5月29日	第5回(第63講)	8月28日
第3回(第61講)	6月26日	第6回(第64講)	9月25日

【会場】 新宿 常円寺 祖師堂 地階ホール

【受講料】 1期6回分12,000円 ※当日1回の受講料は3,000円です

「『摩訶止観』講義」 対面&実況

講師 菅野 博史 先生 ※『文句』講義と同日の午後3時半より

福神研究所主催 『摩訶止観』講義の再開のご挨拶

菅野 博史

『摩訶止観』の講義を開始したのは、2014年9月22日でした。福神研究所の主催で、新宿常円寺を会場として、毎月一回の講義を行ないました。五年半ほど続け、巻第五下の「若無、無不能生」(T46, 64c19)まで講義したところで、コロナ禍のために、講義を中断せざるを得なくなりました。2022年8月29日から『摩訶止観』講義を再開し、対面・オンライン実況の形式で進めています。毎月一回(原則的に、月末の月曜日)、午後3時半~5時半の2時間の講義といたします。

●テキストについて

○基本テキスト: 『摩訶止観』上下二冊(岩波文庫)

○参考図書: 菅野 博史 著『一念三千とは何か『摩訶止観』(正修止観章)』第三文明社

※その他、必要な参考資料やレジュメはこちらで用意して配布いたします

●開催日時: 『法華経』『法華文句』講義 日と同日の、午後3時30分~5時30分

2023年 4月24日 / 5月29日 / 6月26日 / 7月31日 / 8月28日 / 9月25日

●会場: 新宿 常円寺 祖師堂 地階ホール

●受講料: 1回2,000円(対面もオンラインも同額です、受講料の納入は毎回ごととなります)

※「対面は当日払い」予約が不要。 / 「オンラインは予約が必要。

●オンライン(ZOOM)実況の予約と受講について

① メールでオンライン受講の申込み(氏名・連絡先)をお送りください⇒ koueizan@zenryu-ji.jp

② 折り返し「『摩訶止観』講義の告知」欄のURLをお知らせしますので、[Peatix](#)からお申込み・受講料の納入をお願いいたします。お申し込み後は、毎月の開催案内をメールにて送ります。

主催: 福神研究所 静岡県富士市今泉1-1-1 本國寺内 FAX: 0545-52-0094

受講の申込について

聴講希望の方は、この頁のコピーまたは別紙（チラシ）申込欄の各項目に御記入頂きまして、下記のファックス番号にご送信ください。申込用紙が届きましたら、「受講手続き書類」をお送りいたしますので、その手続きに従って1期分の「受講料」をお振込下さい。また「コモンズ口座の郵便振込票」をお持ちの場合は、通信欄に希望講座をお書きの上、振込票をお使いください。お振込を確認しましたら、「受講証」・「受講の手引き」そして領収書をお送りします。なお、メールで申込希望の方は、同様の内容をお書きの上、下記のアドレスに送信してお申し込み下さい。なお、受講者が極端に少ない場合は開講を見合わせますので、ご了承下さい。

メールアドレス ⇒ hokkecommons@gmail.com

FAX 番号 ⇒ 042-627-7227 / ブログ ⇒ <https://hokke-commons.jp>

..... 申込欄

《受講希望の講座の□をチェックして下さい（いくつでも結構です）》

☐ 一日集中講座「中観思想とはなにか―その成立と展開―」（1回） 講師：斎藤 明

☐ 「鎌倉仏教研究史について～官僧・遁世僧の立場から」（2回） 講師：松尾剛次

☐ 歴史から考える日本仏教⑩「日本の偽書・偽文書を読み解く」（全5回） 講師：菊地大樹

☐ 連続講座「法華仏教講座」（全6回）

※個別の受講の場合 ☐ 1回 ☐ 2回 ☐ 3回 ☐ 4回 ☐ 5回 ☐ 6回

☐ 『法華経』『法華文句』講義（全6回） 講師：菅野博史

上記、チェックを入れた講座の受講申込みをいたします

○氏名 _____ 男・女 _____ 才

○住所 〒 _____

○電話 _____ Fax (mail) _____

2023(令和5)年 2月16日 発行 法華コモンズ仏教学林 事務局

192-0051 八王子市元本郷町 1-1-9 善龍寺内 FAX 042-627-7227